

2022年2月に開催された「グローバル・フットウェア・アワード」では、日本人靴職人が1〜3位を独占。その職人たちの多くが学んだ「石原靴工房」の生徒作品も



3月18日(火)〜30日(日)にかけて開催された靴職人特集では、会場内に手製靴職人の作品が一堂に展示され、ワンフロアを埋め尽くす多彩な作品が来場者を魅了した。主催者であるシューフィル城氏は日本の手製靴職人の高い技術力に注目し、彼らの活躍の場を広げることを目指している。

「Shoes Odyssey」第二部 靴職人／百靴繚乱

「日本の手製靴職人は世界的に注目されていますが、国内での認知度はまだ低いのが現状です。手製靴職人が自らの作品を披露できる機会は少なく、多くの職人が催事やPOPUPイベントを通じて販



今回の展示に加わった。石原靴工房は東京・浅草にある靴教室で、ハンドソールンウエルト製法を学ぶ場として知られる。ミシンを使うアッパー作成以外はすべて手道具を使用し、職人技を磨く環境が整えられている。
シューフィル城氏の展望

井上篤氏は経済学を専攻後、ロンドンへ留学。帰国後、OEM会社で生産管理業務に従事し、6年間の経験を積んだ。その後、再びロンドンへ



手製靴職人
井上篤氏へのインタビュー

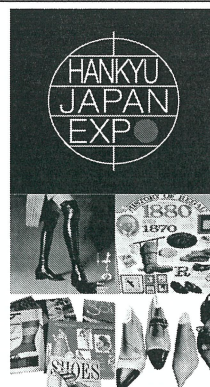
売や受注オーダーを行っています。しかし、独自の店舗を構える資金やコネクションがない職人が多いのも課題です」そこで、同氏は「手製靴職人と協会の店舗とのコラボレーション」を提案。立地の良い店舗の一角に職人の靴を並べることで、相互にメリットを生むWin-Winの関係を築くことを目指している。また、靴メーカーと手製靴職人がコラボすることで、職人のデザインを活かした量産化が可能となり、靴産業全体の活気を取り戻せるのではないかと語る。

手製靴職人になったきっかけ
「ロンドンから帰国後、初めて出展したハンドメイドイベントでの反応が大きな転機になりました。自分のために作った靴を初対面の人々に評価してもらったことで、この道を続ける決意が固まりました」
今後の目標
「靴はこうあるべき、という固定観念にとらわれず、履くこと自体が楽しくなる靴を作りたいですね。特に、スチールパンクファッションや舞台用の靴といった、新たな分野に挑戦していきたい。また、機会があれば海外での出展・販売にも挑戦したいです」



渡り、オリジナル靴の製作・販売を模索。2013年より「ATSUSHI INOUE」としてハンドメイドイベントを中心に活動を開始した。

「Japan and Me. (この国の美に染まる)」をコンセプトに、日本の伝統美と現代の技術を融合させた展示が行われている。阪急百貨店の視点から、日本の生活文化や技、ものづくりの焦点を当て、日本の美しさを紹介する内容となっている。
この展示の一環として、日本靴連盟発行の『靴産業百年史』の内容が4Fシューズギャラリーに掲示されている。昭和初期の流行靴や1930年代のトレンドが紹介され、昭和12年頃の造靴場の様子をポスター化して展示。ぜひ足を運び、日本の靴産業の歴史に触れてみてほしい。



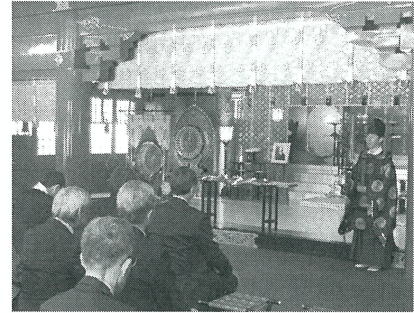
阪急うめだ本店4Fシューズギャラリーにて、2025年4月9日(水)〜5月6日(火・休)の期間、「まだ知らない日本の魅力と出会える」をテーマとした博覧会が開催されている。

HANKYU JAPAN EXPO
(大阪・関西万博)

一般社団法人
東靴協会
千代田区鍛冶町1-6-17
〒101-0044 ☎(3252) 5656
(4月号)



第92回靴の記念日式典 神田明神で厳かに執り行われる



毎年恒例の日本靴連盟主催「靴の記念日式典」が、今年で第92回を迎えた。令和7年3月14日（金）午前10時30分より、神田明神神楽殿において厳粛に執り行われた。



式典終了後は会場を移し、懇親会が開催された。靴業界のさらなる発展を祈る。

念しながら、各テーブルでは和やかに会話が弾み、盛況のうちに閉会となった。

理事会・支部連絡会 だより

令和7年三月二十五日（火）
午後二時 西村記念ホール

会議進行

矢代副会長の司会により、理事会が進められた。

議題

1、会長挨拶

はじめに、栗原会長より、2025年2月23日～25日にイタリア・ミラノで開催された「ミカム展示会」について報告があった。

栗原会長は毎年、現地へ足を運び、会場や出展者の動向を確認している。今回の展示会では、かつて8つあった会場が5つに縮小され、活気が失われつつあるとのことだった。

また、秋冬シーズンの開催であったため、出展ブースではスニーカーの展示はなく、ブーツが中心となっていた。現在の関税は6%だが、今後3年間で段階的に0%となる予定であり、輸入品の価格が下がる一方で、国産品の競争環境はより厳しくなると予測される。

さらに、日本靴卸団体連合会の解散は、靴業界の厳しさを象徴していると指摘された。

2、令和7年度事業計画・収支暫定予算案

木内副会長が、令和7年度の事業計画および収支暫定予算案について説明を行い、今年度の取り組み内容と予算が共有された。

一部修正点はあるものの、毎年恒例の「靴まつり」と「靴の記念日」が主な活動となる予定である。また、今年度から役員や事務局員の入替えにより、新たな体制がスタートする。今後の靴業界の発展を見据え、新たな取り組みも計画に盛り込まれている。

3「靴の記念日」式典について
松戸専務理事より報告があり、今年度の式典は無事終了したこと、また、来年度の開催日程が令和7年3月16日（月）に決定したことが伝えられた。

4、東靴協会と小売商連盟の統一後の会費規定について
統一後の会費規定について、東青会が事前に作成したたたき台をもとに、理事会で検討を行った。

（新会費規定）
・入会金…20,000円
・会費…1企業あたり月1,000円（年間12,000円）
・請求方法…毎年5月（指定月）に請求書を発行し、

振込対応（振込手数料は会員負担）
また、共助会は現行の東靴協会のみで継続することになった。

（靴の記念日・靴まつりの費用）

○日本靴小売商連盟会員企業
・参加費…店舗数×1,000円（従来の700円から改定）
・はがき代…1枚30円
○東靴協会の会員企業
・参加費…無し
・はがき代…100枚までは無料、それ以上は1枚30円
（新規イベントについて）
すべての企業が同じ条件で参加
・参加店舗数に応じて費用を設定（例…参加店舗数×○○円）

本案について、東靴協会の会員から異議はなく、日本靴小売商連盟へ内容の確認を依頼することとなった。

東京都中小企業景況調査(2月)

業況：わずかに下向き
見通し：2か月連続で改善

卸売業			業況			
対象数	回答数	回答率	2月		今後3か月間 見通し(当月比)	
875	340	38.9%	悪い	良い	悪い	良い
			-100	0	100	-100 0 100
衣料・身の回り品	1. 男子服					
	2. 婦人・子供服					
	3. 靴・履物					
	4. かばん・袋物					
	5. 装身具・身の回り品					

小売業			業況			
対象数	回答数	回答率	2月		今後3か月間 見通し(当月比)	
875	333	38.1%	悪い	良い	悪い	良い
			-100	0	100	-100 0 100
衣料・身の回り品	1. 呉服・服地・寝具					
	2. 男子服					
	3. 婦人服					
	4. 子供服					
	5. 靴・履物					
	6. かばん・袋物					
	7. 雑貨・身の回り品					
	8. 時計・眼鏡					
	9. ジュエリー製品					

社名		1月	2月	3月
チヨダ	既存店売上	3.7	-8.9	-1.8
	客数	-1.9	-12.3	-4.3
	客単価	5.7	3.9	2.5
	店舗数	878	873	876
ABCマート	既存店売上	6.1	-1.2	4.1
	客数	-1.6	-5.0	2.6
	客単価	7.8	4.0	1.4
	店舗数	1085	1081	1081
Gフット	既存店売上	-16.3	-11.3	-9.8
	客数	-17.9	-4.6	-8.9
	客単価	1.9	-7.0	-1.0
	店舗数	631	621	642

(昨年同月対比%)

靴専門店・大手三社の 直近3か月売上推移

月末の天候不順が影響し、客数が減少した。戦略的に低価格帯や機能性商品を多く揃えた子供靴が伸長、春商材は伸びたが学販商品が苦戦した。（チヨダ）
天候が安定せず気温の低い日も続いたが、売上は好調。都心部を中心に客数も増加した。学需のキッズシューズが好調。
（ABCマート）
「新学期・新生活応援セール」を実施、PBのオフィスパンプスなどが好調だったが、寒さや荒天等が悪影響した。（ジーフット）